

土師の獅子舞

(県指定無形民俗文化財)

土師／老松神社

毎年、春と秋の老松神社の祭りには、獅子舞が奉納されます。

約700年前、五穀豊穡・家内安全を願って始まったと伝えられるこの獅子舞は、唐(現在の中国)から東シナ海の荒波を、雄雌2頭の獅子が互いに励まし合い渡ってくる、その苦難の様子が表現されていると伝えられています。

上土師と下土師の両地区が1年交代で当番を受け持ち、上土師の舞いは勇壮活発で力強く、下土師は優雅さのなかに“さび”があるのが特徴とされています。

この様に土師の獅子舞は、勇壮な中に写実性があり、優雅で繊細な動きもあって、芸術性が高く、県下を代表する郷土芸能です。



面白そうなお祭り発見!



4月第4日曜日

老松神社大祭(土師)

子どもたちの「まわり打ち」が披露されます。3歳から14歳までの子どもが、白い衣裳に後ろはちまき、五色の布でたすきをかけ、両手に太鼓のばちを持ち、舞います。



ぶらり桂川町

文化の薫り高い心豊かな町、桂川町へようこそ!

受け継がれてゆく
先人の心

桂川町には、遠く長い歴史の中で紡ぎ、育んできた豊かな伝統と文化があります。福岡県の無形民俗文化財に指定されている土師老松神社の獅子舞をはじめ、お神楽、地藏祭り、七瀬祭りのような祭事・伝統芸能や、盆綱、とへとへ、もぐら打ち、お通夜、かつば相撲、刈り落としなど、地域の人たちが伝承してきた多彩な行事もあります。親から子へ、子から孫へと伝えられてきた伝統は、今も人々の心のなかに深く息づき、これからも脈々と受け継がれていきます。

桂川町を
探索しよう!



ナビゲーター なつちゃん(土師)